



クラウド内のアプリケーションをモダナイズするための戦略 AWS

AWS 規範的ガイドンス



AWS 規範的ガイドンス: クラウド内のアプリケーションをモダナイズするための戦略 AWS

Copyright © 2024 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは、カスタマーに混乱を招く可能性がある態様、または Amazon の信用を傷つけたり、失わせたりする態様において、Amazon のものではない製品またはサービスに関連して使用してはなりません。Amazon が所有していない他のすべての商標は、それぞれの所有者の所有物であり、Amazon と提携、接続、または後援されている場合とされていない場合があります。

Table of Contents

序章	1
概要	1
ターゲットを絞ったビジネス成果	4
近代化への総合的なアプローチ	4
モダナイゼーションの戦略的側面	5
フェーズ	8
評価	9
モダナイズ	10
管理	12
次のステップ	13
リソース	14
関連ガイド	14
AWS リソース	14
ドキュメント履歴	15
用語集	16
#	16
A	17
B	20
C	21
D	24
E	28
F	30
G	31
H	32
I	33
L	35
M	36
O	40
P	42
Q	44
R	44
S	47
T	50
U	52

V	52
W	53
Z	54
.....	iv

AWS クラウドにおけるアプリケーションの近代化戦略

ビジエイ・ トウンマ、Amazon Web Services (AWS)

2020 年 12 月 ([ドキュメント履歴](#))

アプリケーションモダナイゼーション戦略を成功させるには、まずビジネスニーズを念頭に置き、次にテクノロジーに焦点を当てます。クラウドへの移行が加速する中、組織はクラウドの導入を加速する方法と、アプリケーションモダナイゼーションへの規範的なアプローチを模索してきました。Amazon Web Services (AWS) は、アプリケーションの近代化ロードマップを、評価、近代化、管理という3つのフェーズに焦点を当てた個別のインクリメントに分割することで、アプリケーションの近代化に取り組んでいます。この記事では、アプリケーションの評価とモダナイゼーションの戦略について説明する。AWS プロフェッショナル・ サービス・ チームが、企業の AWS カスタマーのクラウド導入とアプリケーションのモダナイゼーション・ プロジェクトを支援してきた長年の経験に基づいています。

この戦略は、AWS クラウドでアプリケーションのモダナイゼーションを計画しているITおよびビジネスのエグゼクティブ、プログラムおよびプロジェクトマネージャー、プロダクトオーナー、オペレーションおよびインフラストラクチャマネージャーのためのものです。ミッションクリティカルなアプリケーションを特定する方法、さまざまなモダナイゼーション手法 (リファクタリング、リアーキテクト、リライトなど) を評価する方法、スケーラビリティ、パフォーマンス、セキュリティ、信頼性の向上によってアプリケーションにどのようなメリットがあるかを説明しています。

この戦略は、AWS が推奨するアプリケーション近代化のアプローチを取り上げたコンテンツシリーズの一部です。このシリーズには以下も含まれます。

- [「AWS クラウド上のアプリケーションの近代化対応力を評価する」](#)
- [「AWS クラウドでアプリケーションを近代化するための段階的アプローチ」](#)
- [「モノリスをマイクロサービスに分解する」](#)
- [「AWSサーバーレスサービスによるマイクロサービスの統合」](#)
- [「マイクロサービスにおけるデータ永続化の有効化」](#)

概要

アプリケーションをモダナイズすることで、コストを削減し、効率を高め、既存の投資を最大限に活用できます。それは、新しいテクノロジーを採用し、利用し、ポートフォリオ、アプリケーション

ン、インフラストラクチャの価値をより早く提供し、最適な価格で組織を拡大するための多角的なアプローチです。アプリケーションを最適化した後は、その新しい近代化されたモデルで混乱なく運用し、ビジネス・オペレーション、アーキテクチャ、そして全体的なエンジニアリングの実践を簡素化する必要があります。

リホスト (リフトアンドシフト) アプローチによってアプリケーションを AWS に移行しても、AWS が提供する伸縮性、回復力、導入と管理の容易さ、柔軟性といったメリットを自動的に得られるわけではありません。また、高パフォーマンスのソフトウェア開発を可能にするために、企業文化やプロセスを自動的に近代化するわけではありません。モダナイゼーションとは、現在のアプリケーション環境 (ほとんどの場合、レガシーでモノリシック) を、より機動的で伸縮性があり、可用性の高いものに変えることを意味します。そうすることで、ビジネスを現代の企業に変えることができます。

クラウドの導入と移行を最適化するには、まず自社の準備状況を評価し、診断する必要があります。組織の準備状況を評価したら、次のことが可能になります。

- 1 つまたは 2 つのアプリケーションを選択します。
- これらのアプリケーションを近代化することで、現在および将来のビジネスのニーズを満たす方法で、アプリケーションを保守、拡張、展開、管理できるようにします。
- 前の 2 つのステップで得た実践的な経験を活かして、大規模なモダナイゼーションの基盤を確立します。このフェーズでは、サポートインフラストラクチャ、アプリケーションミドルウェア、ミドルウェアサービス (データベース、キューイングソフトウェア、統合ソフトウェア、その他のテクノロジーなど)、およびその他のコンポーネントを決定することで、完全なモダナイゼーションソリューションを作成できます。

この記事で説明するアプリケーション・モダナイゼーションへの反復的アプローチは、評価、モダナイズ、管理という 3 つの大まかなフェーズに分けることができます。これらの段階については、この記事の後半で詳しく説明します。

Modernization Approach



Assess



Modernize



Manage

Modernize

Unlock value at every stage & accelerate

- ✓ Assess readiness and portfolio
- ✓ Focus on replatform/refactor/replace
- ✓ Apply patterns & solutions with Time to Value
- ✓ Kick off modernization into high gear

ターゲットを絞ったビジネス成果

企業規模のアプリケーションの近代化には、複数の次元を結びつけ、完全性を加速度的に提供する全体的なアプローチ（評価、近代化、管理）が必要です。AWS が推奨するフレームワークは、自動化、開発者のワークフロー、セルフサービス・データ、アーキテクチャの進化、価値のための組織という5つの技術ドメインにわたるモダナイゼーションを想定しています。これらの分野については、「[モダナイゼーションの戦略的側面](#)」セクションで詳しく説明しています。AWS プロフェッショナル・サービスと AWS パートナー契約で使用できるフレームワークには、ソリューションを含むナレッジベース、セルフサービスのテクニカルパターン、プレイブック、テンプレートが含まれます。

モダナイゼーションプロジェクトが成功すれば、次のようなビジネス成果が生まれます。

- ビジネスアジリティ – ビジネスニーズを要件に変換するビジネス内の効果。デリバリー組織がビジネスの要求にどれだけ迅速に対応できるか、また、本番環境への機能リリースをビジネスがどれだけコントロールできるかのです。
- 組織のアジリティ – アジャイル手法と DevOps セレモニーを含むデリバリープロセスで、明確な役割割り当てと組織全体のコラボレーションとコミュニケーションをサポートします。
- エンジニアリングの有効性 – 品質保証、テスト、継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CI/CD)、構成管理、アプリケーション設計、ソースコード管理の向上。

こうしたビジネス成果を達成するには、全体的なアプローチと、一連の戦略的次元に基づく近代化プロセスが必要です。

近代化への総合的なアプローチ

アプリケーションのモダナイゼーションには、次のような段階的な取り組みが必要です。

- データ主導の意思決定を行い、レガシーとクラウドワークロードを分析します。
- クラウドへの移行プロセスを評価します。
- 人工知能 (AI)、モノのインターネット (IoT)、機械学習 (ML) などの新たなテクノロジーをサポートするために、コンテナ、サーバーレス技術、最新のデータベースなどの新しい機能を統合します。

組織の全領域にわたって継続的な近代化を進めることが成功の鍵です。モダナイゼーションの価値を最大限に引き出すには、選択肢とトレードオフを理解し、エンタープライズ・アプリケーション、差

別化されたアプリケーション、差別化されていないアプリケーション、コモディティ・アプリケーションを組み合わせ、接続する能力に重点を置くべきです。このプロセスは、ビジネス成果に沿ったアプリケーション評価から始まり、企業がアプリケーションを最適に展開・管理できるようにします。

今日の企業は、レガシーシステムに複雑で非効率な点があり、その結果、次のような結果になってしまうと、新しいビジネスモデルや変化するビジネスモデルに適応できなくなる可能性があります。

- 変化し続けるビジネスや市場の需要に迅速に対応できないアジリティの欠如。
- アプリケーションに必要な変更を加えることができない柔軟性の欠如。
- 新しいアプリケーション機能を導入したり、新しいユーザーやキャパシティを巻き込んだ既存の機能を拡張したりできないスケーラビリティの欠如。
- パフォーマンスの問題：アプリケーションが望ましい標準や測定基準に沿って動作しない場合。
- データに関する洞察の欠如:データサイロが多すぎて、デジタルイノベーションが遅れている場合。
- セキュリティが組み込まれ、全体に統合されている新しいアプリケーションフレームワークには存在しないギャップや脆弱性がアプリケーションに存在する場合、セキュリティリスクが高まります。
- 新しいアプリケーションやサービスを追加できないため、新しいテクノロジーや最新のアーキテクチャの採用が妨げられます。
- レガシーアプリケーションやアプリケーションフレームワークは、近代化されたアプリケーションよりも多くのリソースを消費し、冗長性や非効率性が増すことが多いため、コストが高くなります。

モダナイゼーションの戦略的側面

最新のアプリケーションは、効果的に開発・管理されれば、カスタマーに多面的な利益をもたらします。アジリティ、レジリエンス、エンジニアリング効率を高めることでイノベーションを加速させるために、一連の戦略的側面に基づいて継続的なモダナイゼーションのプロセスを確立できます。これらの実証済みのパターンや手法を継続的に活用することで、既存のアプリケーションコンポーネントを最新のデプロイメントプラットフォームにデプロイしたり、既存の機能を新しいアプリケーションから利用できるようにしたり、アプリケーションアーキテクチャを最新のスタックに更新したりできます。

これらの近代化の次元は、以下の図に示されている通りである：

- 価値のための組織 – 組織構造、ガバナンス、プロセスを再編成し、カスタマーの成果を通じてビジネス価値を提供できる小規模なフルスタック製品チームを中心に据えます。
- アーキテクチャの進化 – コアビジネス機能をモノリシックなアプリケーションから、開発者がイノベーションの基盤として使用できる、独立して保守可能で進化可能で再利用可能なサービスの集まりに移行することで、デジタル製品プラットフォームを構築します。
- データへのユビキタスなアクセス – 最新のデータアーキテクチャ、ストレージ、アクセスパターンを AWS サービスと組み合わせることで、開発者、データサイエンティスト、ビジネスユーザーが組織のデータストリームに簡単にアクセスできるようにします。
- ビルダースプリングボード – アジャイルソフトウェアエンジニアリングのプラクティス (DevOps、テスト自動化、CI/CD、オブザーバビリティなど)、関連ツール、アプリケーションレイヤーサービスを、統合された開発者ワークフローにまとめます。このワークフローは開発の道筋を定義し、コードをアイデアから本番に移す時間を短縮します。
- インフラストラクチャの自動化 – AWS サービスを組み合わせ、軽量なインフラストラクチャ基盤を構築します。コンテナと AI/ML を活用して、よく使われるインフラストラクチャー・プリミティブを抽象化して自動化します。これにより開発リソースが解放され、カスタマー向けの新製品や新サービスの創出を通じてビジネス価値を提供することに集中できます。

Strategic dimensions of a modernization methodology

ORGANIZATION FOR VALUE

People, process, and culture

Aligned to discrete business outcomes and value

ARCHITECTURE EVOLUTION

Decoupled product services

Enabling rapid composition for innovation

UBIQUITOUS ACCESS TO DATA

Self-service data strategy

Making intelligence assets easily consumable

BUILDER SPRINGBOARDS

Builder-friendly platform

Accelerating time from idea to production code

INFRASTRUCTURE AUTOMATION

Cloud platform and services

Freeing up developers to focus on business value

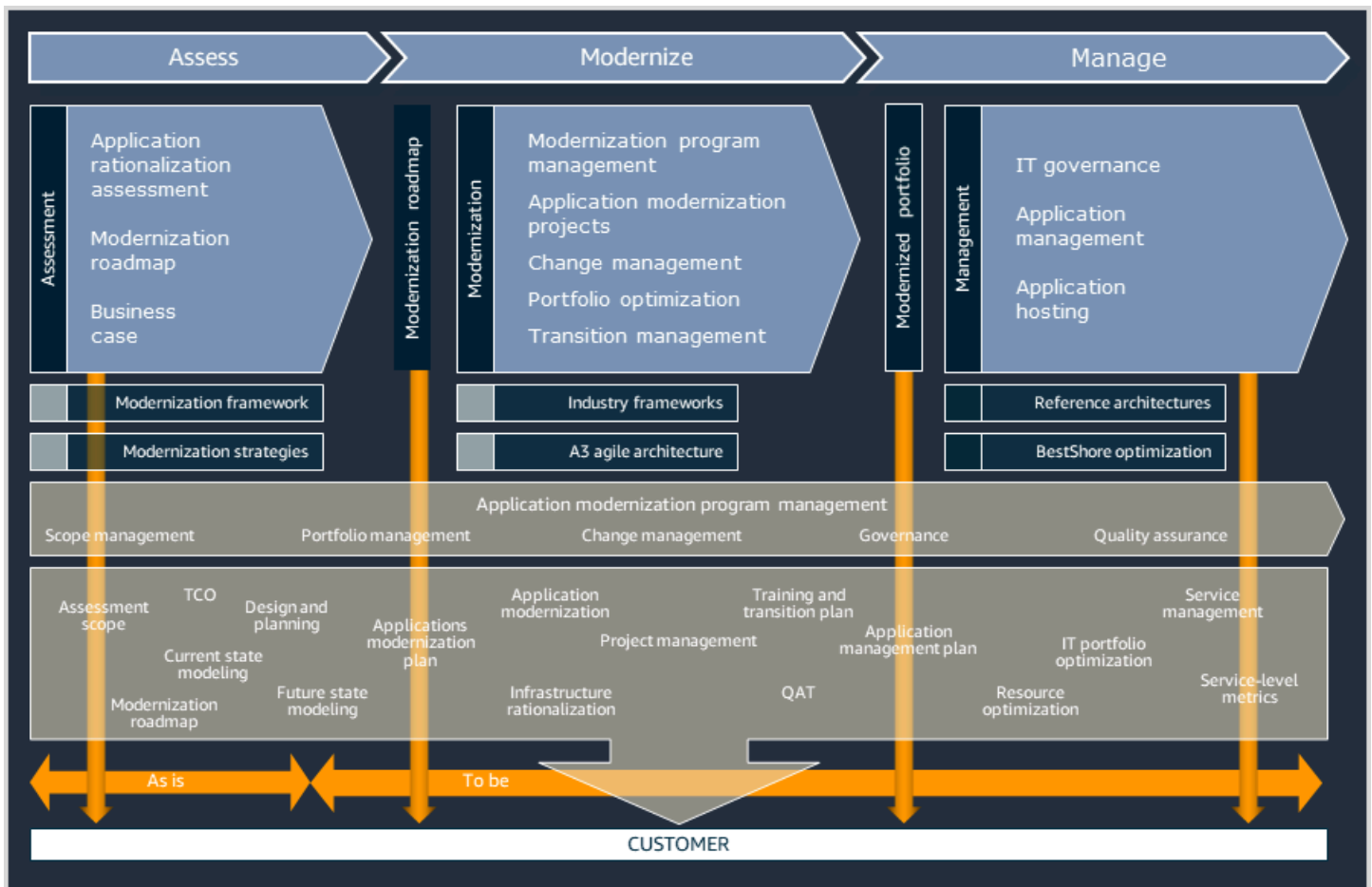
このような近代化の戦略的側面を適用することで、組織の生産性が向上し、測定可能で持続可能な成果を実現できます。あなたの組織は次のことができるようになる：

- 差別化された顧客体験を向上させ、創造します。
- イノベーションを加速し、市場投入までの時間を短縮し、新製品を頻繁にリリースします。
- ITインフラへの支出を減らすことで、コストを最適化し、回避します。
- アジリティを向上させ、新特徴や機能性を大規模に追加します。
- 新機能を迅速に導入することで、スタッフの生産性を向上させます。
- サービスレベルアグリーメント (SLA) を改善し、計画外の停止を減らします。

近代化プロセスのフェーズ

カスタマーの要求に応え、変化するテクノロジー環境を活用できるようにアプリケーションをモダナイズすることは、組織の競争上の優位性と市場シェアを維持するために不可欠です。このようなビジネスニーズを満たすための重要な戦略は、老朽化したアプリケーションを最新のアーキテクチャに変換することで、継続的な使用と真の価値の両方を実現することです。アプリケーションの詳細や他のシステムとの相互関係を包括的に理解することは、アプリケーションのモダナイゼーションを行う上で重要なステップです。

アプリケーションのモダナイゼーションに対する AWS アプローチは反復的であり、次の図に示すように、3つのハイレベルなフェーズ（評価、モダナイゼーション、管理）に分けることができます。



以下のセクションでは、各フェーズについて詳しく説明します。

トピック

- [評価](#)

- [モダナイズ](#)
- [管理](#)

評価

組織のモダナイゼーションの第一歩は、既存のアプリケーションポートフォリオを分析し、モダナイズが必要なシステムを評価し、アプリケーションのモダナイゼーションに必要な技術的ソリューションを特定することです。このフェーズでは、[アプリケーションの近代化に関する質問表](#)を使用して、アプリケーションのポートフォリオを評価し、合理化し、ポートフォリオ内のアプリケーションのビジネス的、機能的、技術的、財務的な重要性（戦略的価値）を判断することができます。これにより、フューチャー的なアーキテクチャが構築されたときに、その組織がどの程度サポートできるかが決まります。

アクティビティ

- 次の 5 つの観点からアプリケーションを評価します。
 - 戦略的または事業的適合性
 - 機能的妥当性
 - 技術的妥当性
 - 財務上の適合
 - デジタル対応
- アプリケーションをグループ化し、ランク付けし、順番に並べる。
- 目標と中間オペレーティングモデルを文書化する。
- 主要技術と規制要件を理解する。
- 大規模なデータ移行が必要なアプリケーションを決定する。
- 変換するデータの範囲と量を明確にする。

結果

- アプリケーション近代化のブループリント
- 1 つまたは 2 つのアプリケーションの目標状態に対応する技術的および機能的アーキテクチャ
 - 戦略的または事業的適合性
 - 機能的妥当性
 - 技術的妥当性

- 財務上の適合
- デジタル対応

ハウツーガイド

- 「[AWS クラウド上のアプリケーションの近代化対応力を評価する](#)」

モダナイズ

このフェーズでは、プロジェクトの目標とリソース要件を決定し、実装ロードマップを作成します。目標は、モダンでアジャイルなアプリケーションアーキテクチャを構築するモダナイゼーションプログラムを使用して、アプリケーションを活性化することです。

アクティビティ

- アプリケーションのソースコードとデータを変換するマイルストーンを決定する。
- 新しい目標環境を運用・管理するために必要な基準や手順が確実に対処されるよう、すべての業務領域のマッピングを完了する。
- クラウドネイティブなアプローチと最善の言語とフレームワークを使用することで、信頼性、アクセシビリティ、成長要件に対応できるインフラ・ソリューションを導入する。近代化されたアプリケーションの構成要素には、次のような特徴がある：
 - 軽量コンテナとしてパッケージされています。
 - 疎結合マイクロサービスとして設計されています。
 - 対話とコラボレーションのための API を中心としています。
 - ステートレス・サービスとステートフル・サービスをきれいに分離して設計されている
 - サーバーやオペレーティングシステムに依存しない
 - セルフサービスで伸縮性のあるクラウドインフラに展開する
 - アジャイルな DevOps プロセスを通じて管理する
 - 自動化機能を含む
 - 定義済みのポリシー主導型のリソース割り当てを提供

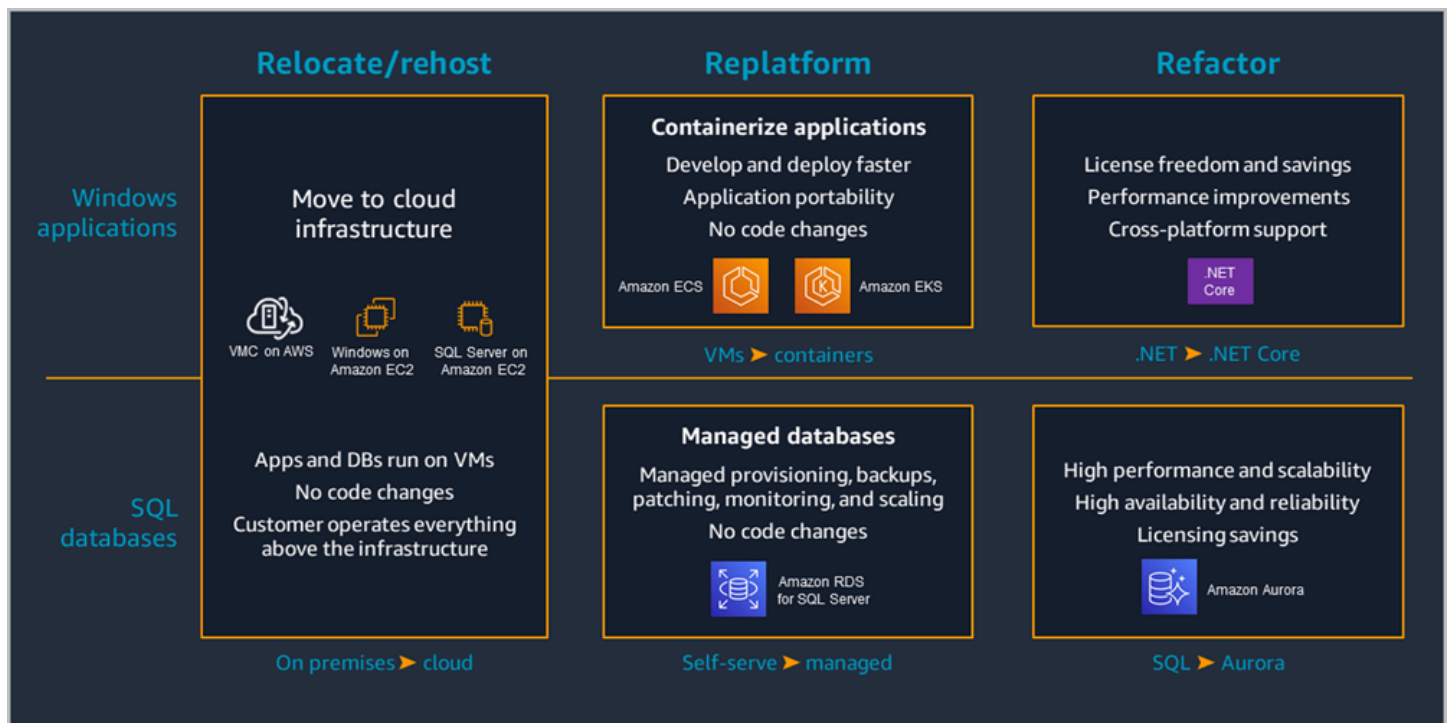
結果

- 目標状態のデータモデル設計

- トレーニングとツールの改善を通じて、組織の準備態勢を構築する (チェンジ・ マネジメントとオペレーション・ モデル)
- 変革活動のための定期的な活動の確立
- リファインオペレーティング・ モデルとデリバリー効果の測定
- 主要なビジネスケース指標 (提供した価値について追跡および報告される)
- 改良と自動化活動の継続
- 各アプリケーションに適用される戦略とスケーリング方法を定義するモダナイゼーションロードマップ
- 新しいアプリケーションのロードマップと同期した反復的なテストの実施を含む、近代化の準備と実施

例

次の図は、レガシー Windows アプリケーションのモダナイゼーションオプションを示しています。



ハウツーガイド

- [「AWS クラウドでアプリケーションを近代化するための段階的アプローチ」](#)

管理

アプリケーションの特性を詳細に理解し、その後のモダナイゼーション作業によって生じるリスクを軽減するために、すべてのモダナイゼーション活動に再学習の取り組みが組み込まれています。アプリケーション・ワークロードは、アプリケーション・チームがアプリケーション・ワークロードのランタイム特性を理解し、最適化できるように、プラットフォーム・サービスを利用できる必要があります。つまり、アプリケーションチームは、最新化されたアプリケーションの運用機能を他のすべてのアプリケーション機能と同様に扱う必要があります。そうすれば、マイクロサービスの運用は効果的にエンジニアリングの一部となります。モダナイゼーションの導入を成功させるには、組織内のサイト信頼性エンジニアリング (SRE) 機能の構築の一環として、この DevOps 文化をクラウドネイティブの運用に取り入れることが不可欠です。管理フェーズには、効果的な変更管理、プログラム管理、品質保証、サービスエクセレンスのすべての要素が含まれます。

ハウツーガイド

- [「AWS クラウドでの運用の近代化」](#)

次のステップ

アプリケーションのモダナイズプロセスを開始する前に、準備状況評価を実行して、組織がモダナイゼーションへの取り組みを開始する準備ができているかどうかを判断します。チーム間の調整を図り、新しい働き方を採用できるようにします。ほとんどの企業は、最大の収益を生み出し、中核となるビジネス機能を提供するレガシーアプリケーションを大量に使用しています。これらのレガシーアプリケーションのアーキテクチャ、インフラストラクチャ、テクノロジーが維持されていると、モダナイゼーションが複雑になり、スピードが停滞し、チームがアプリケーションを革新して変革する能力がさらに制限されます。

モダナイゼーションへのアプローチは、段階的ではあるが継続的でなければなりません。この段階的なアプローチに従うことで、技術的負債を減らすだけでなく、自己修復システムによるシームレスなスケールによってチームがクラウドのメリットをより早く実感できるようになり、クラウドネイティブなパターンを使用して投資収益率 (ROI) を最大化し、差別化されていないワークロードや依存関係をオフロードし、アプリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。運用モデルを変更し、現在のアプリケーションを詳細に評価することから始まるフレームワークに合わせる方法、そしてデプロイ、迅速なスケール、効率的な管理が可能なクラウドネイティブサービスを使用してそれらのアプリケーションをモダナイズする方法の詳細については、「[関連ガイド](#)」セクションのモダナイゼーションガイドを参照してください。

リソース

関連ガイド

- [「AWS クラウド上のアプリケーションの近代化対応力を評価する」](#)
- [「AWS クラウドでアプリケーションを近代化するための段階的アプローチ」](#)
- [AWS クラウドでの運用の近代化](#)
- [「モノリスをマイクロサービスに分解する」](#)
- [「AWSサーバーレスサービスによるマイクロサービスの統合」](#)
- [「マイクロサービスにおけるデータ永続化の有効化」](#)
- [「AWSクラウドへの移行に関する規範的なガイドンス」](#)

AWS リソース

- [AWS ドキュメント](#)
- [AWS general reference](#)
- [AWS 用語集](#)

ドキュメント履歴

以下の表は、このドキュメントの大きな変更点をまとめたものです。今後の更新に関する通知を受け取る場合は、[RSS フィード](#)をサブスクライブできます。

変更	説明	日付
初版発行	—	2020 年 12 月 18 日

AWS 規範的ガイドンスの用語集

以下は、AWS 規範的ガイドンスによって提供される戦略、ガイド、パターンで一般的に使用される用語です。エントリを提案するには、用語集の最後のフィードバックの提供リンクを使用します。

数字

7 Rs

アプリケーションをクラウドに移行するための 7 つの一般的な移行戦略。これらの戦略は、ガートナーが 2011 年に特定した 5 Rs に基づいて構築され、以下で構成されています。

- リファクタリング/アーキテクチャの再設計 — クラウドネイティブ特徴を最大限に活用して、俊敏性、パフォーマンス、スケーラビリティを向上させ、アプリケーションを移動させ、アーキテクチャを変更します。これには、通常、オペレーティングシステムとデータベースの移植が含まれます。例: オンプレミスの Oracle データベースを Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディションに移行する。
- リプラットフォーム (リフトアンドリシェイプ) — アプリケーションをクラウドに移行し、クラウド機能を活用するための最適化レベルを導入します。例: お客様のオンプレミスの Oracle データベースを AWS クラウドの Oracle 用の Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) に移行する。
- 再購入 (ドロップアンドショップ) — 通常、従来のライセンスから SaaS モデルに移行して、別の製品に切り替えます。例: 顧客関係管理 (CRM) システムを Salesforce.com に移行する。
- リホスト (リフトアンドシフト) — クラウド機能を活用するための変更を加えずに、アプリケーションをクラウドに移行します。例: お客様のオンプレミスの Oracle データベースを AWS クラウドの EC2 インスタンス上の Oracle に移行する。
- 再配置 (ハイパーバイザーレベルのリフトアンドシフト) — 新しいハードウェアの購入、アプリケーションの書き換え、お客様の既存のオペレーションの変更を行うことなく、インフラストラクチャをクラウドに移行できます。この移行シナリオは AWS の VMware Cloud に固有のもので、お客様のオンプレミス環境と、および AWS の間の仮想マシン (VM) 互換性とワークロードの移植性をサポートします。インフラストラクチャを AWS の VMware Cloud に移行するときに、お客様のオンプレミスのデータセンターから VMware Cloud Foundation テクノロジーを使用できます。例: AWS の Oracle データベースをホストしているハイパーバイザーを VMware Cloud 上に再配置する。
- 保持 (再アクセス) — アプリケーションをお客様のソース環境で保持します。これには、主要なリファクタリングを必要とするアプリケーションや、お客様がその作業を後日まで延期したい

アプリケーション、およびそれらを行移するためのビジネス上の正当性がないため、お客様が保持するレガシーアプリケーションなどがあります。

- 使用停止 — お客様のソース環境で不要になったアプリケーションを停止または削除します。

A

ABAC

[「属性ベースのアクセスコントロール」](#)を参照してください。

抽象化されたサービス

[「マネージドサービス」](#)を参照してください。

ACID

[アトミック性、整合性、分離、耐久性](#)を参照してください。

アクティブ - アクティブ移行

(双方向レプリケーションツールまたは二重書き込み操作を使用して) ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させ、移行中に両方のデータベースが接続アプリケーションからのトランザクションを処理するデータベース移行方法。この方法では、1 回限りのカットオーバーの必要がなく、管理された小規模なバッチで移行できます。アクティブ [パッシブ移行](#) よりも柔軟性がありますが、多くの作業が必要です。

アクティブ - パッシブ移行

ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させながら、データがターゲットデータベースにレプリケートされている間、接続しているアプリケーションからのトランザクションをソースデータベースのみで処理するデータベース移行の方法。移行中、ターゲットデータベースはトランザクションを受け付けません。

集計関数

行のグループを操作し、グループの単一の戻り値を計算するための SQL 関数。集計関数の例には、SUMや などがありますMAX。

AI

[「人工知能」](#)を参照してください。

AI Ops

[「人工知能オペレーション」](#)を参照してください。

匿名化

データセット内の個人情報を完全に削除するプロセス。匿名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。匿名化されたデータは、もはや個人データとは見なされません。

アンチパターン

繰り返し発生する問題に対して、そのソリューションが逆効果であったり、効果がなかったり、代替ソリューションよりも効果が低かったりする場合によく使用されるソリューション。

アプリケーションコントロール

マルウェアからシステムを保護するために、承認されたアプリケーションのみを使用できるようにするセキュリティアプローチ。

アプリケーションポートフォリオ

アプリケーションの構築と維持にかかるコスト、およびそのビジネス価値を含む、組織が使用する各アプリケーションに関する詳細情報の集まり。この情報は、[ポートフォリオの検出と分析プロセス](#)の需要要素であり、移行、モダナイズ、最適化するアプリケーションを特定し、優先順位を付けるのに役立ちます。

人工知能 (AI)

コンピューティングテクノロジーを使用し、学習、問題の解決、パターンの認識など、通常は人間に関連づけられる認知機能の実行に特化したコンピュータサイエンスの分野。詳細については、「[人工知能 \(AI\) とは何ですか?](#)」を参照してください。

AI オペレーション (AIOps)

機械学習技術を使用して運用上の問題を解決し、運用上のインシデントと人の介入を減らし、サービス品質を向上させるプロセス。AWS 移行戦略での AIOps の使用方法については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

非対称暗号化

暗号化用のパブリックキーと復号用のプライベートキーから成る 1 組のキーを使用した、暗号化のアルゴリズム。パブリックキーは復号には使用されないため共有しても問題ありませんが、プライベートキーの利用は厳しく制限する必要があります。

原子性、一貫性、分離性、耐久性 (ACID)

エラー、停電、その他の問題が発生した場合でも、データベースのデータ有効性と運用上の信頼性を保証する一連のソフトウェアプロパティ。

属性ベースのアクセス制御 (ABAC)

部署、役職、チーム名など、ユーザーの属性に基づいてアクセス許可をきめ細かく設定する方法。詳細については、AWS Identity and Access Management (IAM) ドキュメントの[AWS の ABAC とは](#)を参照してください。

信頼できるデータソース

最も信頼性のある情報源とされるデータのプライマリバージョンを保存する場所。匿名化、編集、仮名化など、データを処理または変更する目的で、信頼できるデータソースから他の場所にデータをコピーすることができます。

アベイラビリティゾーン

AWS リージョン 内の仕切られた場所は、他のアベイラビリティゾーンに障害が発生してもその影響を受けず、低コスト、低レイテンシーで同一リージョン内の他のアベイラビリティゾーンに接続できます。

AWS クラウド導入フレームワーク (AWS CAF)

組織がクラウドに正常に移行するための効率的で効果的な計画を立てるのを支援する AWS からのガイドラインとベストプラクティスのフレームワーク。AWSCAF は、ビジネス、人材、ガバナンス、プラットフォーム、セキュリティ、運用の観点と呼ばれる 6 つの重点を置く分野にガイドンスを編成しています。ビジネス、人材、ガバナンスの観点では、ビジネススキルとプロセスに重点を置き、プラットフォーム、セキュリティ、オペレーションの視点は技術的なスキルとプロセスに焦点を当てています。例えば、人材の観点では、人事 (HR)、人材派遣機能、および人材管理を扱うステークホルダーを対象としています。この観点から、AWS CAF は、クラウドの導入を成功させるための組織の準備を支援するために、人材開発、トレーニング、コミュニケーションに関するガイドンスを提供します。詳細については、[AWS CAF ウェブサイト](#)と[AWS CAF のホワイトペーパー](#)を参照してください。

AWS ワークロード資格フレームワーク (AWS WQF)

データベース移行ワークロードを評価し、移行戦略を推奨し、作業の見積もりを提供するツール。AWSWQF は AWS Schema Conversion Tool (AWS SCT) と共に含まれます。データベーススキーマとコードオブジェクト、アプリケーションコード、依存関係、およびパフォーマンス特性を分析し、評価レポートを提供します。

B

BCP

[「ビジネス継続性計画」](#)を参照してください。

動作グラフ

リソースの動作とインタラクションを経時的に示した、一元的なインタラクティブビュー。Amazon Detective の動作グラフを使用すると、失敗したログオンの試行、不審な API 呼び出し、その他同様のアクションを調べることができます。詳細については、Detective ドキュメントの[Data in a behavior graph](#)を参照してください。

ビッグエンディアンシステム

最上位バイトを最初に格納するシステム。[エンディアンネス](#)も参照してください。

二項分類

バイナリ結果 (2 つの可能なクラスのうちの一つ) を予測するプロセス。例えば、お客様の機械学習モデルで「この E メールはスパムですか、それともスパムではありませんか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。または「この製品は書籍ですか、車ですか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。

ブルームフィルター

要素がセットのメンバーであるかどうかをテストするために使用される、確率的でメモリ効率の高いデータ構造。

ブランチ

コードリポジトリに含まれる領域。リポジトリに最初に作成するブランチは、メインブランチといます。既存のブランチから新しいブランチを作成し、その新しいブランチで機能を開発したり、バグを修正したりできます。機能を構築するために作成するブランチは、通常、機能ブランチと呼ばれます。機能をリリースする準備ができたなら、機能ブランチをメインブランチに統合します。詳細については、[「ブランチについて \(GitHub ドキュメント\)」](#)を参照してください。

ブレーククロスアクセス

例外的な状況や承認されたプロセスでは、通常はアクセス許可AWS アカウントがないにユーザーがすばやくアクセスできるようになります。詳細については、AWS Well-Architected [ガイドンスの「Break Glass 手順の実装」](#)インジケータを参照してください。

ブラウフィールド戦略

環境の既存インフラストラクチャ。システムアーキテクチャにブラウフィールド戦略を導入する場合、現在のシステムとインフラストラクチャの制約に基づいてアーキテクチャを設計します。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウフィールド戦略と[グリーンフィールド](#)戦略を融合させることもできます。

バッファキャッシュ

アクセス頻度が最も高いデータが保存されるメモリ領域。

ビジネス能力

価値を生み出すためにビジネスが行うこと (営業、カスタマーサービス、マーケティングなど)。マイクロサービスのアーキテクチャと開発の決定は、ビジネス能力によって推進できます。詳細については、ホワイトペーパー[AWS でのコンテナ化されたマイクロサービスの実行のビジネス機能を中心に組織化](#)セクションを参照してください。

ビジネス継続性計画 (BCP)

大規模移行など、中断を伴うイベントが運用に与える潜在的な影響に対処し、ビジネスを迅速に再開できるようにする計画。

C

CAF

[AWS 「クラウド導入フレームワーク」](#)を参照してください。

CCoE

[「Cloud Center of Excellence」](#)を参照してください。

CDC

[「変更データキャプチャ」](#)を参照してください。

変更データキャプチャ (CDC)

データソース (データベーステーブルなど) の変更を追跡し、その変更に関するメタデータを記録するプロセス。CDC は、ターゲットシステムでの変更を監査またはレプリケートして同期を維持するなど、さまざまな目的に使用できます。

カオス エンジニアリング

システムの耐障害性をテストするために、意図的に障害や破壊的なイベントを導入する。[AWS Fault Injection Service \(AWS FIS\)](#) を使用して、AWSワークロードに負荷を掛け、その応答を評価する実験を実行できます。

CI/CD

[「継続的インテグレーションと継続的デリバリー」](#) を参照してください。

分類

予測を生成するのに役立つ分類プロセス。分類問題の機械学習モデルは、離散値を予測します。離散値は、常に互いに区別されます。例えば、モデルがイメージ内に車があるかどうかを評価する必要がある場合があります。

クライアント側の暗号化

ターゲットの AWS のサービス が受け取る前に、データをローカルで暗号化すること。

Cloud Center of Excellence (CCoE)

クラウドのベストプラクティスの作成、リソースの移動、移行のタイムラインの確立、大規模変革を通じて組織をリードするなど、組織全体のクラウド導入の取り組みを推進する学際的なチーム。詳細については、AWS クラウドエンタープライズ戦略ブログの [CCoE の投稿](#) を参照してください。

クラウドコンピューティング

リモートデータストレージと IoT デバイス管理に通常使用されるクラウドテクノロジー。クラウドコンピューティングは、エッジ [コンピューティング](#) テクノロジーに一般的に接続されています。

クラウド運用モデル

IT 組織において、1 つ以上のクラウド環境を構築、成熟、最適化するために使用される運用モデル。詳細については、[「クラウド運用モデルの構築」](#) を参照してください。

導入のクラウドステージ

組織が、AWS クラウドへの移行時に通常実行する 4 つの段階。

- プロジェクト — 概念実証と学習を目的として、クラウド関連のプロジェクトをいくつか実行する
- 基礎固め — お客様のクラウドの導入を拡大するための基礎的な投資 (ランディングゾーンの作成、CCoE の定義、運用モデルの確立など)

- 移行 — 個々のアプリケーションの移行
- 再発明 — 製品とサービスの最適化、クラウドでのイノベーション

これらのステージは Stephen Orban が AWS クラウドエンタープライズ戦略ブログの [クラウドファーストジャーニーと導入ステージ](#) というブログ記事で定義したものです。これらが、AWS 移行戦略とどのような関係があるかについては、[移行準備ガイド](#)を参照してください。

CMDB

[「設定管理データベース」](#)を参照してください。

コードリポジトリ

ソースコードやその他の資産 (ドキュメント、サンプル、スクリプトなど) が保存され、バージョン管理プロセスを通じて更新される場所。一般的なクラウドリポジトリには、GitHub またはが含まれますAWS CodeCommit。コードの各バージョンはブランチと呼ばれます。マイクロサービスの構造では、各リポジトリは 1 つの機能専用です。1 つの CI/CD パイプラインで複数のリポジトリを使用できます。

コールドキャッシュ

空である、または、かなり空きがある、もしくは、古いデータや無関係なデータが含まれているバッファキャッシュ。データベースインスタンスはメインメモリまたはディスクから読み取る必要があり、バッファキャッシュから読み取るよりも時間がかかるため、パフォーマンスに影響します。

コールドデータ

めったにアクセスされず、通常は過去のデータです。この種類のデータをクエリする場合、通常は低速なクエリでも問題ありません。このデータを低パフォーマンスで安価なストレージ階層またはクラスに移動すると、コストを削減することができます。

コンピュータビジョン

画像内の人物、場所、物を人間と同等以上の精度で識別するために機械が使用するAIの分野です。多くの場合、深層学習モデルを使用して構築され、1 つの画像または一連の画像からの有用な情報の抽出、分析、分類、理解を自動化します。

構成管理データベース (CMDB)

データベースとその IT 環境 (ハードウェアとソフトウェアの両方のコンポーネントとその設定を含む) に関する情報を保存、管理するリポジトリ。通常、CMDB のデータは、移行のポートフォリオの検出と分析の段階で使用します。

パフォーマンスパック

組み合わせることでコンプライアンスチェックとセキュリティチェックをカスタマイズできる、AWS Config ルールと修復アクションのコレクション。パフォーマンスパックは、1つのエンティティとして AWS アカウント とリージョンに、または YAML テンプレートを使用して組織全体にデプロイできます。詳細については、AWS Config ドキュメントの[パフォーマンスパック](#)を参照してください。

継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CI/CD)

ソフトウェアリリースプロセスのソース、ビルド、テスト、ステージング、本番の各ステージを自動化するプロセス。CI/CD は一般的にパイプラインと呼ばれます。プロセスの自動化、生産性の向上、コード品質の向上、配信の加速化を可能にします。詳細については、「[継続的デリバリーの利点](#)」を参照してください。CD は継続的デプロイ (Continuous Deployment) の略語でもあります。詳細については「[継続的デリバリーと継続的なデプロイ](#)」を参照してください。

D

保管中のデータ

ストレージ内にあるデータなど、常に自社のネットワーク内にあるデータ。

データ分類

ネットワーク内のデータを重要度と機密性に基づいて識別、分類するプロセス。データに適した保護および保持のコントロールを判断する際に役立つため、あらゆるサイバーセキュリティのリスク管理戦略において重要な要素です。データ分類は、AWS Well-Architected フレームワークの、セキュリティの柱の一要素です。詳細については、[データ分類](#)を参照してください。

データドリフト

実稼働データと ML モデルのトレーニングに使用されたデータとの間に有意な差異が生じたり、入力データが時間の経過と共に有意に変化したりすることです。データドリフトは、ML モデル予測の全体的な品質、精度、公平性を低下させる可能性があります。

転送中のデータ

ネットワーク内 (ネットワークリソース間など) を活発に移動するデータ。

データ最小化

厳密に必要なデータのみを収集し、処理するという原則。AWS クラウド でデータ最小化を実践することで、プライバシーリスク、コスト、分析の二酸化炭素排出量を削減することができます。

データ境界

環境内の一連の予防ガードレール。信頼できる ID のみが、期待されるネットワークから信頼できるリソースにアクセスしていることAWSを確認できます。詳細については、[「でのデータ境界の構築AWS」](#)を参照してください。

データの前処理

raw データをお客様の機械学習モデルで簡単に解析できる形式に変換すること。データの前処理とは、特定の列または行を削除して、欠落している、矛盾している、または重複する値に対処することを意味します。

データ出所

データの生成、送信、保存の方法など、データのライフサイクル全体を通じてデータの出所と履歴を追跡するプロセス。

データ件名

データを収集、処理している個人。

データウェアハウス

分析などのビジネスインテリジェンスをサポートするデータ管理システム。通常、データウェアハウスには大量の履歴データが含まれており、クエリや分析によく使用されます。

データベース定義言語 (DDL)

データベース内のテーブルやオブジェクトの構造を作成または変更するためのステートメントまたはコマンド。

データベース操作言語 (DML)

データベース内の情報を変更 (挿入、更新、削除) するためのステートメントまたはコマンド。

DDL

[「データベース定義言語」](#)を参照してください。

ディープアンサンブル

予測のために複数の深層学習モデルを組み合わせる。ディープアンサンブルを使用して、より正確な予測を取得したり、予測の不確実性を推定したりできます。

ディープラーニング

人工ニューラルネットワークの複数層を使用して、入力データと対象のターゲット変数の間のマッピングを識別する機械学習サブフィールド。

defense-in-depth

一連のセキュリティメカニズムとコントロールをコンピュータネットワーク全体に層状に重ねて、ネットワークとその内部にあるデータの機密性、整合性、可用性を保護する情報セキュリティの手法。この戦略を AWS に採用すると、AWS Organizations 構造内の各層に複数のコントロールが追加され、リソースの安全を維持できます。例えば、defense-in-depth アプローチでは多要素認証、ネットワークセグメンテーション、暗号化を組み合わせることができます。

委任管理者

AWS Organizations では、互換性のあるサービスは AWS メンバーアカウントを登録することで、組織のアカウントやそのサービスのアクセス許可を管理できるようになります。このアカウントを、そのサービスの委任管理者と呼びます。詳細、および互換性のあるサービスの一覧は、AWS Organizations ドキュメントの[AWS Organizations で使用できるサービス](#)を参照してください。

デプロイメント

アプリケーション、新機能、コードの修正をターゲットの環境で利用できるようにするプロセス。デプロイでは、コードベースに変更を施した後、アプリケーションの環境でそのコードベースを構築して実行します。

開発環境

[「環境」](#)を参照してください。

検出管理

イベントが発生したときに、検出、ログ記録、警告を行うように設計されたセキュリティコントロール。これらのコントロールは副次的な防衛手段であり、実行中の予防的コントロールをすり抜けたセキュリティイベントをユーザーに警告します。詳細については、Implementing security controls on AWSの[Detective controls](#)を参照してください。

開発バリューストリームマッピング (DVSM)

ソフトウェア開発ライフサイクルのスピードと品質に悪影響を及ぼす制約を特定し、優先順位を付けるために使用されるプロセス。DVSM は、もともとリーン・ マニファクチャリング・ プラクティスのために設計されたバリュー・ ストリーム・ マッピング・ プロセスを拡張したものです。ソフトウェア開発プロセスを通じて価値を創造し、動かすために必要なステップとチームに焦点を当てています。

デジタルツイン

建物、工場、産業機器、生産ラインなど、現実世界のシステムを仮想的に表現したものです。デジタルツインは、予知保全、リモートモニタリング、生産最適化をサポートします。

ディメンションテーブル

[スタースキーマ](#) では、ファクトテーブル内の量子データに関するデータ属性を含む小さなテーブル。ディメンションテーブル属性は通常、テキストフィールドまたはテキストのように動作する離散数値です。これらの属性は、クエリの制約、フィルタリング、結果セットのラベル付けによく使用されます。

ディザスタ

ワークロードまたはシステムが、導入されている主要な場所でのビジネス目標の達成を妨げるイベント。これらのイベントは、自然災害、技術的障害、または意図しない設定ミスやマルウェア攻撃などの人間の行動の結果である場合があります。

での災害対策

[災害](#)によるダウンタイムとデータ損失を最小限に抑えるために使用する戦略とプロセス。詳細については、Well-Architected Framework ドキュメントの「Disaster recovery options in the cloud」を参照してください。

DML

[「データベース操作言語」](#)を参照してください。

ドメイン駆動型設計

各コンポーネントが提供している変化を続けるドメイン、またはコアビジネス目標にコンポーネントを接続して、複雑なソフトウェアシステムを開発するアプローチ。この概念は、エリック・エヴァンスの著書、Domain-Driven Design: Tackling Complexity in the Heart of Software (ドメイン駆動設計:ソフトウェアの中心における複雑さへの取り組み) で紹介されています (ポストン: Addison-Wesley Professional、2003)。strangler fig パターンでドメイン駆動型設計を使

用する方法の詳細については、[コンテナと Amazon API Gateway を使用して、従来の Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスを段階的にモダナイズ](#)を参照してください。

DR

[「ディザスタリカバリ」](#)を参照してください。

ドリフト検出

ベースライン設定からの逸脱の追跡。例えば、AWS CloudFormationを使用して[システムリソースのドリフトを検出したり](#)、AWS Control Towerを使用してガバナンス要件への準拠に影響を与える可能性のある[ランディングゾーンの変更を検出したり](#)できます。

DVSM

[「開発値ストリームマッピング」](#)を参照してください。

E

EDA

[「調査データ分析」](#)を参照してください。

エッジコンピューティング

IoT ネットワークのエッジにあるスマートデバイスの計算能力を高めるテクノロジー。[クラウドコンピューティング](#)と比較すると、エッジコンピューティングは通信レイテンシーを短縮し、応答時間を短縮できます。

暗号化

人間が読み取り可能なプレーンテキストデータを暗号文に変換するコンピューティングプロセス。

暗号化キー

暗号化アルゴリズムが生成した、ランダム化されたビットからなる暗号文字列。キーの長さは決まっておらず、各キーは予測できないように、一意になるように設計されています。

エンディアン

コンピュータメモリにバイトが格納される順序。ビッグエンディアンシステムでは、最上位バイトが最初に格納されます。リトルエンディアンシステムでは、最下位バイトが最初に格納されません。

エンドポイント

「[サービスエンドポイント](#)」を参照してください。

エンドポイントサービス

仮想プライベートクラウド (VPC) 内でホストして、他のユーザーと共有できるサービス。エンドポイントサービスは AWS PrivateLink を使って作成でき、アクセス許可を他の AWS アカウントまたは AWS Identity and Access Management (IAM) プリンシパルに付与することができます。これらのアカウントまたはプリンシパルは、インターフェイス VPC エンドポイントを作成することで、エンドポイントサービスにプライベートに接続できます。詳細については、Amazon Virtual Private Cloud (Amazon VPC) ドキュメントの「[エンドポイントサービスを作成する](#)」を参照してください。

エンベロープ暗号化

暗号化キーを、別の暗号化キーを使用して暗号化するプロセス。詳細については、AWS Key Management Service (AWS KMS) ドキュメントの[エンベロープ暗号化](#)を参照してください。

環境

実行中のアプリケーションのインスタンス。クラウドコンピューティングにおける一般的な環境の種類は以下のとおりです。

- 開発環境 — アプリケーションのメンテナンスを担当するコアチームのみが使用できる、実行中のアプリケーションのインスタンス。開発環境は、上位の環境に昇格させる変更をテストするときに使用します。このタイプの環境は、テスト環境と呼ばれることもあります。
- 下位環境 — 初期ビルドやテストに使用される環境など、アプリケーションのすべての開発環境。
- 本番環境 — エンドユーザーがアクセスできる、実行中のアプリケーションのインスタンス。CI/CD パイプラインでは、本番環境が最後のデプロイ環境になります。
- 上位環境 — コア開発チーム以外のユーザーがアクセスできるすべての環境。これには、本番環境、本番前環境、ユーザー承認テスト環境などが含まれます。

エピック

アジャイル方法論で、お客様の作業の整理と優先順位付けに役立つ機能カテゴリ。エピックでは、要件と実装タスクの概要についてハイレベルな説明を提供します。例えば、AWS CAF セキュリティエピックには、アイデンティティとアクセスの管理、検出型制御、インフラストラクチャセキュリティ、データ保護、インシデント対応が含まれます。AWS 移行戦略のエピックの詳細については、[プログラム実装ガイド](#)を参照してください。

探索的データ分析 (EDA)

データセットを分析してその主な特性を理解するプロセス。お客様は、データを収集または集計してから、パターンの検出、異常の検出、および前提条件のチェックのための初期調査を実行します。EDA は、統計の概要を計算し、データの可視化を作成することによって実行されます。

F

ファクトテーブル

[star スキーマ](#) 内の中央テーブル。事業運営に関する量子データが保存されます。通常、ファクトテーブルには、メジャーを含む列とディメンションテーブルへの外部キーを含む列の 2 種類の列が含まれます。

フェイルファスト

頻繁で段階的なテストを使用して開発ライフサイクルを短縮する哲学。これはアジャイルアプローチの重要な部分です。

障害分離境界

ではAWS クラウド、障害の影響を制限し、ワークロードの耐障害性を向上させるアベイラビリティゾーンAWS リージョン、、コントロールプレーン、データプレーンなどの境界。詳細については、[AWS「障害分離境界」](#)を参照してください。

機能ブランチ

[ブランチ](#) を参照してください。

特徴量

お客様が予測に使用する入力データ。例えば、製造コンテキストでは、特徴量は製造ラインから定期的にキャプチャされるイメージの可能性もあります。

特徴量重要度

モデルの予測に対する特徴量の重要性。これは通常、Shapley Additive Deskonations (SHAP) や積分勾配など、さまざまな手法で計算できる数値スコアで表されます。詳細については、[「による機械学習モデルの解釈可能性 : AWS」](#)を参照してください。

機能変換

追加のソースによるデータのエンリッチ化、値のスケーリング、単一のデータフィールドからの複数の情報セットの抽出など、機械学習プロセスのデータを最適化すること。これにより、機械

学習モデルはデータの恩恵を受けることができます。例えば、「2021-05-27 00:15:37」の日付を「2021年」、「5月」、「木」、「15」に分解すると、学習アルゴリズムがさまざまなデータコンポーネントに関連する微妙に異なるパターンを学習するのに役立ちます。

FGAC

[「きめ細かなアクセスコントロール」](#)を参照してください。

きめ細かなアクセス制御 (FGAC)

複数の条件を使用してアクセス要求を許可または拒否すること。

フラッシュカット移行

段階的なアプローチを使用する代わりに、[変更データキャプチャ](#)を通じて継続的なデータレプリケーションを使用して、可能な限り短時間でデータを移行するデータベース移行方法。目的はダウンタイムを最小限に抑えることです。

G

Geo ブロック

[「地理的制限」](#)を参照してください。

地理的制限 (ジオブロッキング)

Amazon では CloudFront、特定の国のユーザーがコンテンツ配信にアクセスできないようにするオプション。アクセスを許可する国と禁止する国は、許可リストまたは禁止リストを使って指定します。詳細については、CloudFront ドキュメントの[「コンテンツの地理的ディストリビューションの制限」](#)を参照してください。

Gitflow ワークフロー

下位環境と上位環境が、ソースコードリポジトリでそれぞれ異なるブランチを使用する方法。Gitflow ワークフローはレガシーと見なされ、[トランクベースのワークフロー](#)は最新の推奨アプローチです。

グリーンフィールド戦略

新しい環境に既存のインフラストラクチャが存在しないこと。システムアーキテクチャにグリーンフィールド戦略を導入する場合、既存のインフラストラクチャ (別名 [ブラウンフィールド](#)) との互換性の制約を受けることなく、あらゆる新しいテクノロジーを選択できます。既存のインフラ

ストラクチャを拡張している場合は、ブラウフィールド戦略とグリーンフィールド戦略を融合させることもできます。

ガードレール

組織単位 (OU) 全般のリソース、ポリシー、コンプライアンスを管理するのに役立つ概略的なルール。予防ガードレールは、コンプライアンス基準に一致するようにポリシーを実施します。これらは、サービスコントロールポリシーと IAM アクセス許可の境界を使用して実装されます。検出ガードレールは、ポリシー違反やコンプライアンス上の問題を検出し、修復のためのアラートを発信します。これらは、AWS Config、Amazon AWS Security Hub、GuardDuty、Amazon Inspector AWS Trusted Advisor、およびカスタムAWS Lambdaチェックを使用して実装されます。

H

HA

[「高可用性」](#)を参照してください。

異種混在データベースの移行

別のデータベースエンジンを使用するターゲットデータベースへお客様の出典データベースの移行 (例えば、Oracle から Amazon Aurora)。異種間移行は通常、アーキテクチャの再設計作業の一部であり、スキーマの変換は複雑なタスクになる可能性があります。[AWS は、スキーマの変換に役立つ AWS SCT を提供します](#)。

高可用性

課題や災害が発生した場合に、介入なしにワークロードを継続的に運用できること。HA システムは、自動的にフェイルオーバーし、一貫して高品質のパフォーマンスを提供し、パフォーマンスへの影響を最小限に抑えながらさまざまな負荷や障害を処理するように設計されています。

ヒストリアンモダナイゼーション

製造業のニーズによりよく応えるために、オペレーション・テクノロジー (OT) システムを近代化し、アップグレードするためのアプローチ。ヒストリアンは、工場内のさまざまなソースからデータを収集して保存するために使用されるデータベースの一種です。

同種データベースの移行

お客様の出典データベースを、同じデータベースエンジンを共有するターゲットデータベース (Microsoft SQL Server から Amazon RDS for SQL Server など) に移行する。同種間移行は、通

常、リホストまたはリプラットフォーム化の作業の一部です。ネイティブデータベースユーティリティを使用して、スキーマを移行できます。

ホットデータ

リアルタイムデータや最近の翻訳データなど、頻繁にアクセスされるデータ。通常、このデータには高速なクエリ応答を提供する高性能なストレージ階層またはクラスが必要です。

ホットフィックス

本番環境の重大な問題を修正するために緊急で配布されるプログラム。その緊急性により、通常は一般的な DevOps リリースワークフローの外部で修正が行われます。

ハイパーケア期間

カットオーバー直後、移行したアプリケーションを移行チームがクラウドで管理、監視して問題に対処する期間。通常、この期間は 1~4 日です。ハイパーケア期間が終了すると、アプリケーションに対する責任は一般的に移行チームからクラウドオペレーションチームに移ります。

|

IaC

「Infrastructure [as Code](#)」を参照してください。

ID ベースのポリシー

AWS クラウド 環境内のアクセス許可を定義している、1 つ以上の IAM プリンシパルにアタッチされたポリシー。

アイドル状態のアプリケーション

90 日間の平均的な CPU およびメモリ使用率が 5~20% のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するか、オンプレミスに保持するのが一般的です。

IIoT

「[産業分野におけるモノのインターネット](#)」を参照してください。

イミュータブルインフラストラクチャ

既存のインフラストラクチャを更新、パッチ適用、または変更する代わりに、本番稼働用ワークロードに新しいインフラストラクチャをデプロイするモデル。イミュータブルなインフラストラクチャは、本質的に [ミュータブルなインフラストラクチャ](#) よりも一貫性、信頼性、予測性が高く

|

なります。詳細については、AWS Well-Architected Framework の「[イミュータブルなインフラストラクチャのベストプラクティスを使用したデプロイ](#)」を参照してください。

インバウンド (受信) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャ内で、アプリケーション外部からのネットワーク接続を受け入れ、検査し、ルーティングする VPC。[AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

増分移行

アプリケーションを 1 回ですべてカットオーバーするのではなく、小さい要素に分けて移行するカットオーバー戦略。例えば、最初は少数のマイクロサービスまたはユーザーのみを新しいシステムに移行する場合があります。すべてが正常に機能することを確認できたら、残りのマイクロサービスやユーザーを段階的に移行し、レガシーシステムを廃止できるようにします。この戦略により、大規模な移行に伴うリスクが軽減されます。

インフラストラクチャ

アプリケーションの環境に含まれるすべてのリソースとアセット。

Infrastructure as Code (IaC)

アプリケーションのインフラストラクチャを一連の設定ファイルを使用してプロビジョニングし、管理するプロセス。IaC は、新しい環境を再現可能で信頼性が高く、一貫性のあるものにするため、インフラストラクチャを一元的に管理し、リソースを標準化し、スケールを迅速に行えるように設計されています。

産業分野における IoT (IIoT)

製造、エネルギー、自動車、ヘルスケア、ライフサイエンス、農業などの産業部門におけるインターネットに接続されたセンサーやデバイスの使用。詳細については、「[Building an industrial Internet of Things \(IIoT\) digital transformation strategy](#)」を参照してください。。

インスペクション VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャ内で、(同一または異なる AWS リージョンの) VPC、インターネット、オンプレミスネットワーク間のネットワークトラフィックの検査を管理する、一元化された VPC。[AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

IoT

インターネットまたはローカル通信ネットワークを介して他のデバイスやシステムと通信する、センサーまたはプロセッサが組み込まれた接続済み物理オブジェクトのネットワーク。詳細については、「[IoT とは](#)」を参照してください。

解釈可能性

機械学習モデルの特性で、モデルの予測がその入力にどのように依存するかを人間が理解できる度合いを表します。詳細については、「[AWS を使用した機械学習モデルの解釈](#)」を参照してください。

IoT

「[モノのインターネット](#)」を参照してください。

IT 情報ライブラリ (ITIL)

IT サービスを提供し、これらのサービスをビジネス要件に合わせるための一連のベストプラクティス。ITIL は ITSM の基盤を提供します。

IT サービス管理 (ITSM)

組織の IT サービスの設計、実装、管理、およびサポートに関連する活動。クラウドオペレーションと ITSM ツールの統合については、「[オペレーション統合ガイド](#)」を参照してください。

ITIL

「[IT 情報ライブラリ](#)」を参照してください。

ITSM

「[IT サービス管理](#)」を参照してください。

L

ラベルベースアクセス制御 (LBAC)

強制アクセス制御 (MAC) の実装で、ユーザーとデータ自体にそれぞれセキュリティレベル値が明示的に割り当てられます。ユーザーセキュリティレベルとデータセキュリティレベルが交差する部分によって、ユーザーに表示される行と列が決まります。

ランディングゾーン

ランディングゾーンは、Well-Architected の、スケーラブルで安全なマルチアカウント AWS 環境です。これは、組織がセキュリティおよびインフラストラクチャ環境に自信を持ってワークロー

ドとアプリケーションを迅速に起動してデプロイできる出発点です。ランディングゾーンの詳細については、[安全でスケーラブルなマルチアカウント AWS 環境のセットアップ](#) を参照してください。

大規模な移行

300 台以上のサーバの移行。

LBAC

[「ラベルベースのアクセスコントロール」](#) を参照してください。

最小特権

タスクの実行には必要最低限の権限を付与するという、セキュリティのベストプラクティス。詳細については、IAM ドキュメントの[最小特権アクセス許可を適用する](#) を参照してください。

リフトアンドシフト

[「7 Rs」](#) を参照してください。

リトルエンディアンシステム

最下位バイトを最初に格納するシステム。[エンディアン性](#) も参照してください。

下位環境

[「環境」](#) を参照してください。

M

機械学習 (ML)

パターン認識と学習にアルゴリズムと手法を使用する人工知能の一種。ML は、モノのインターネット (IoT) データなどの記録されたデータを分析して学習し、パターンに基づく統計モデルを生成します。詳細については、「[機械学習](#)」を参照してください。

メインブランチ

[ブランチ](#) を参照してください。

マネージドサービス

AWS のサービスがインフラストラクチャレイヤー、オペレーティングシステム、プラットフォームをAWS運用し、ユーザーがエンドポイントにアクセスしてデータを保存および取得する対象になります。Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) と Amazon DynamoDB は、マネージドサービスの例です。これらは抽象化されたサービスとも呼ばれます。

MAP

[「移行促進プログラム」](#)を参照してください。

メカニズム

ツールを作成し、ツールの導入を推進し、結果を検査して調整を行う完全なプロセス。メカニズムとは、動作中に自身を強化および改善するサイクルです。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの「Building [mechanisms](#)」を参照してください。

メンバーアカウント

AWS Organizations の組織に含まれる管理アカウント以外の、すべての AWS アカウント。アカウントが組織のメンバーになることができるのは、一度に 1 つのみです。

マイクロサービス

明確に定義された API を介して通信し、通常は小規模な自己完結型のチームが所有する、小規模で独立したサービスです。例えば、保険システムには、販売やマーケティングなどのビジネス機能、または購買、請求、分析などのサブドメインにマッピングするマイクロサービスが含まれる場合があります。マイクロサービスの利点には、俊敏性、柔軟なスケーリング、容易なデプロイ、再利用可能なコード、回復力などがあります。詳細については、[AWS サーバーレスサービスを使用してマイクロサービスを統合する](#)を参照してください。

マイクロサービスアーキテクチャ

各アプリケーションプロセスをマイクロサービスとして実行する独立したコンポーネントを使用してアプリケーションを構築するアプローチ。これらのマイクロサービスは、軽量 API を使用して、明確に定義されたインターフェイスを介して通信します。このアーキテクチャの各マイクロサービスは、アプリケーションの特定の機能に対する需要を満たすように更新、デプロイ、およびスケーリングできます。詳細については、[AWS でのマイクロサービスの実装](#)を参照してください。

Migration Acceleration Program (MAP)

組織がクラウドへの移行のための強力な運用基盤を構築し、移行の初期コストを相殺するのに役立つコンサルティングサポート、トレーニング、サービスを提供する AWS プログラム。MAP には、組織的な方法でレガシー移行を実行するための移行方法論と、一般的な移行シナリオを自動化および高速化する一連のツールが含まれています。

大規模な移行

アプリケーションポートフォリオの大部分を次々にクラウドに移行し、各ウェーブでより多くのアプリケーションを高速に移動させるプロセス。この段階では、以前の段階から学んだベストプラクティスと教訓を使用して、移行ファクトリー チーム、ツール、プロセスのうち、オートメー

ションとアジャイルデリバリーによってワークロードの移行を合理化します。これは、[AWS 移行戦略](#) の第 3 段階です。

移行ファクトリー

自動化された俊敏性のあるアプローチにより、ワークロードの移行を合理化する部門横断的なチーム。移行ファクトリーチームには、通常、オペレーション、ビジネスアナリストと所有者、移行エンジニア、デベロッパー、スプリントで作業する DevOps プロフェッショナルが含まれます。エンタープライズアプリケーションポートフォリオの 20~50% は、ファクトリーのアプローチによって最適化できる反復パターンで構成されています。詳細については、このコンテンツセットの[移行ファクトリーに関する解説](#)と [Cloud Migration Factory ガイド](#) を参照してください。

移行メタデータ

移行を完了するために必要なアプリケーションおよびサーバーに関する情報。移行パターンごとに、異なる一連の移行メタデータが必要です。移行メタデータの例として、ターゲットサブネット、セキュリティグループ、AWS アカウントが挙げられます。

移行パターン

移行戦略、移行先、および使用する移行アプリケーションまたはサービスを詳述する、反復可能な移行タスク。例: AWS Application Migration Service を使用して Amazon EC2 への移行を再ホストする。

Migration Portfolio Assessment (MPA)

AWS クラウドに移行するためのビジネスケースを検証するための情報を提供するオンラインツール。MPA は、詳細なポートフォリオ評価 (サーバーの適切なサイジング、価格設定、TCO 比較、移行コスト分析) および移行プラン (アプリケーションデータの分析とデータ収集、アプリケーションのグループ化、移行の優先順位付け、およびウェーブプランニング) を提供します。[MPA ツール](#) (ログインが必要) は、すべての人に無料で利用できる AWS コンサルタントと APN パートナーコンサルタントです。

移行準備状況評価 (MRA)

組織のクラウド対応状況に関するインサイトを獲得し、長所と短所を特定し、AWS CAF を使用して特定されたギャップを埋めるためのアクションプランを構築するプロセス。詳細については、[移行準備状況ガイド](#) を参照してください。MRA は、[AWS 移行戦略](#) の第一段階です。

移行戦略

ワークロードを AWS クラウドに移行するために使用するアプローチ。詳細については、この用語集の「[7 Rs エントリ](#)」と、「[組織を準備して大規模な移行を加速する](#)」を参照してください。

ML

[「機械学習」](#)を参照してください。

MPA

[「移行ポートフォリオ評価」](#)を参照してください。

モダナイゼーション

古い (レガシーまたはモノリシック) アプリケーションとそのインフラストラクチャをクラウド内の俊敏で弾力性のある高可用性システムに変換して、コストを削減し、効率を高め、イノベーションを活用します。詳細については、[AWS クラウドのアプリケーションのモダナイズ戦略](#)を参照してください。

モダナイゼーション準備状況評価

組織のアプリケーションのモダナイゼーションの準備状況を判断し、利点、リスク、依存関係を特定し、組織がこれらのアプリケーションの将来の状態をどの程度適切にサポートできるかを決定するのに役立つ評価。評価の結果として、ターゲットアーキテクチャのブループリント、モダナイゼーションプロセスの開発段階とマイルストーンを詳述したロードマップ、特定されたギャップに対処するためのアクションプランが得られます。詳細については、[AWS クラウドでのアプリケーションのモダナイゼーションの準備状況を評価する](#)を参照してください。

モノリシックアプリケーション (モノリス)

緊密に結合されたプロセスを持つ単一のサービスとして実行されるアプリケーション。モノリシックアプリケーションにはいくつかの欠点があります。1つのアプリケーション機能エクスペリエンスの需要が急増する場合は、アーキテクチャ全体をスケーリングする必要があります。モノリシックアプリケーションの特徴を追加または改善することは、コードベースが大きくなると複雑になります。これらの問題に対処するには、マイクロサービスアーキテクチャを使用できます。詳細については、[モノリスをマイクロサービスに分解する](#)を参照してください。

多クラス分類

複数のクラスの予測を生成するプロセス (2つ以上の結果の1つを予測します)。例えば、機械学習モデルが、「この製品は書籍、自動車、電話のいずれですか?」または、「このお客様にとって最も関心のある商品のカテゴリはどれですか?」と聞くかもしれません。

変更可能なインフラストラクチャ

本番ワークロードの既存のインフラストラクチャを更新および変更するモデル。一貫性、信頼性、予測可能性を向上させるために、AWS Well-Architected フレームワークでは、[イミュータブルインフラストラクチャ](#)をベストプラクティスとして使用することをお勧めします。

O

OAC

[「オリジンアクセスコントロール」](#)を参照してください。

OAI

[「オリジンアクセスアイデンティティ」](#)を参照してください。

OCM

[「組織の変更管理」](#)を参照してください。

オフライン移行

移行プロセス中にソースワークロードを停止させる移行方法。この方法はダウンタイムが長くなるため、通常は重要ではない小規模なワークロードに使用されます。

OI

[「オペレーションの統合」](#)を参照してください。

OLA

[「運用レベルの契約」](#)を参照してください。

オンライン移行

ソースワークロードをオフラインにせずにターゲットシステムにコピーする移行方法。ワークロードに接続されているアプリケーションは、移行中も動作し続けることができます。この方法はダウンタイムがゼロから最小限で済むため、通常は重要な本番稼働環境のワークロードに使用されます。

オペレーショナルレベルアグリーメント (OLA)

サービスレベルアグリーメント (SLA) をサポートするために、どの機能的 IT グループが互いに提供することを約束するかを明確にする契約。

運用準備状況レビュー (TAK)

インシデントの範囲や障害の可能性を理解、評価、防止、または縮小するのに役立つ質問と関連ベストプラクティスのチェックリスト。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの[「運用準備状況レビュー \(TAK\)」](#)を参照してください。

オペレーション統合 (OI)

クラウドでオペレーションをモダナイズするプロセスには、準備計画、オートメーション、統合が含まれます。詳細については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

組織の証跡

AWS Organizations 内の一組織の、すべての AWS アカウント のイベントをすべてログ記録している AWS CloudTrail が作成した証跡。証跡は、組織に含まれている各 AWS アカウント に作成され、各アカウントのアクティビティを追跡します。詳細については、ドキュメントの「[組織の証跡の作成](#)」を参照してください。CloudTrail

組織変更管理 (OCM)

人材、文化、リーダーシップの観点から、主要な破壊的なビジネス変革を管理するためのフレームワーク。OCM は、変化の導入を加速し、移行問題に対処し、文化や組織の変化を推進することで、組織が新しいシステムと戦略の準備と移行するのを支援します。AWS 移行戦略では、クラウド導入プロジェクトに必要な変更のスピードから、このフレームワークは人材の高速化と呼ばれます。詳細については、[OCM ガイド](#)を参照してください。

オリジンアクセスコントロール (OAC)

では CloudFront、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) コンテンツを保護するためにアクセスを制限するための拡張オプションです。OAC は、すべての AWS リージョン のすべての S3 バケット、AWS KMS (SSE-KMS) を使用したサーバー側の暗号化、S3 バケットへのダイナミックな PUT および DELETE リクエストをサポートしています。

オリジンアクセスアイデンティティ (OAI)

では CloudFront、Amazon S3 コンテンツを保護するためのアクセスを制限するオプションです。OAI を使用する場合は Amazon S3 が認証できるプリンシパル CloudFront を作成します。認証されたプリンシパルは、特定の CloudFront ディストリビューションを介してのみ S3 バケット内のコンテンツにアクセスできます。[OAC](#)も併せて参照してください。OAC では、より詳細な、強化されたアクセスコントロールが可能です。

TAK

[「運用準備状況レビュー」](#)を参照してください。

アウトバウンド (送信) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャで、アプリケーションの内部から開始したネットワーク接続を処理する VPC。[AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリケーションとより広範

なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

P

アクセス許可の境界

ユーザーまたはロールが使用できるアクセス許可の上限を設定する、IAM プリンシパルにアタッチされる IAM 管理ポリシー。詳細については、IAM ドキュメントの[アクセス許可の境界](#)を参照してください。

個人を特定できる情報 (PII)

直接閲覧した場合、または他の関連データと組み合わせた場合に、個人の身元を合理的に推測するために使用できる情報。PII の例には、氏名、住所、連絡先情報などがあります。

PII

[個人を特定できる情報を参照してください。](#)

プレイブック

クラウドでのコアオペレーション機能の提供など、移行に関連する作業を取り込む、事前定義された一連のステップ。プレイブックは、スクリプト、自動ランブック、またはお客様のモダナイズされた環境を運用するために必要なプロセスや手順の要約などの形式をとることができます。

ポリシー

アクセス許可の定義 ([アイデンティティベースのポリシーを参照](#))、アクセス条件の指定 ([リソースベースのポリシーを参照](#))、または の組織内のすべてのアカウントに対する最大アクセス許可の定義 AWS Organizations ([サービスコントロールポリシーを参照](#)) が可能なオブジェクト。

多言語の永続性

データアクセスパターンやその他の要件に基づいて、マイクロサービスのデータストレージテクノロジーを個別に選択します。マイクロサービスが同じデータストレージテクノロジーを使用している場合、実装上の問題が発生したり、パフォーマンスが低下する可能性があります。マイクロサービスは、要件に最も適合したデータストアを使用すると、より簡単に実装でき、パフォーマンスとスケーラビリティが向上します。詳細については、[マイクロサービスでのデータ永続性の有効化](#)を参照してください。

ポートフォリオ評価

移行を計画するために、アプリケーションポートフォリオの検出、分析、優先順位付けを行うプロセス。詳細については、[移行準備状況ガイド](#)を参照してください。

述語

true または を返すクエリ条件。通常false、WHERE句にあります。

述語プッシュダウン

転送前にクエリ内のデータをフィルタリングするデータベースクエリ最適化手法。これにより、リレーショナルデータベースから取得および処理する必要があるデータの量が減少し、クエリのパフォーマンスが向上します。

予防的コントロール

イベントの発生を防ぐように設計されたセキュリティコントロール。このコントロールは、ネットワークへの不正アクセスや好ましくない変更を防ぐ最前線の防御です。詳細については、Implementing security controls on AWSの[Preventative controls](#)を参照してください。

プリンシパル

アクションを実行してリソースにアクセスできる AWS 内のエンティティです。このエンティティは、通常は AWS アカウント のルートユーザー、IAM ロール、ユーザーのいずれかになります。詳細については、IAM ドキュメントの[ロールに関する用語と概念](#)内にあるプリンシパルを参照してください。

プライバシーバイデザイン

エンジニアリングプロセス全体を通してプライバシーを考慮に入れたシステムエンジニアリングのアプローチ。

プライベートホストゾーン

1 つ以上の VPC 内のドメインとそのサブドメインへの DNS クエリに対し、Amazon Route 53 がどのように応答するかに関する情報を保持するコンテナ。詳細については、Route 53 ドキュメントの「[プライベートホストゾーンの使用](#)」を参照してください。

プロアクティブコントロール

非準拠のリソースのデプロイを防ぐように設計された[セキュリティコントロール](#)。これらのコントロールは、プロビジョニング前にリソースをスキャンします。リソースがコントロールに準拠していない場合、プロビジョニングされません。詳細については、AWS Control Towerドキュメ

ントの「[コントロールリファレンスガイド](#)」および「[でのセキュリティコントロールの実装](#)」の「[プロアクティブコントロール](#)」を参照してください。 AWS

本番環境

[「環境」](#)を参照してください。

仮名化

データセット内の個人識別子をプレースホルダー値に置き換えるプロセス。仮名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。仮名化されたデータは、依然として個人データとみなされます。

Q

クエリプラン

SQL リレーショナルデータベースシステムのデータにアクセスするために使用される、手順などの一連のステップ。

クエリプランのリグレッション

データベースサービスのオプティマイザーが、データベース環境に特定の変更が加えられる前に選択されたプランよりも最適性の低いプランを選択すること。これは、統計、制限事項、環境設定、クエリパラメータのバインディングの変更、およびデータベースエンジンの更新などが原因である可能性があります。

R

RACI マトリックス

[「責任、説明、相談、報告 \(RACI\)」](#)を参照してください。

ランサムウェア

決済が完了するまでコンピュータシステムまたはデータへのアクセスをブロックするように設計された、悪意のあるソフトウェア。

RASCI マトリックス

[「責任、説明、相談、報告 \(RACI\)」](#)を参照してください。

RCAC

[「行と列のアクセスコントロール」](#)を参照してください。

リードレプリカ

読み取り専用で使用されるデータベースのコピー。クエリをリードレプリカにルーティングして、プライマリデータベースへの負荷を軽減できます。

再設計

「[7 Rs](#)」を参照してください。

目標復旧時点 (RPO)

RPO とは、データが最後に復旧した時点を起点とする経過時間の、許容される値のことです。これにより、最後の回復時点からサービスが中断されるまでの間に許容できるデータ損失の程度が決まります。

目標復旧時間 (RTO)

RTO とは、サービスが中断してから復旧するまでに経過した時間 (遅延) の、許容される値のことです。

リファクタリング

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リージョン

地理的な領域内の AWS リソースのコレクション。各 AWS リージョンは、耐障害性、安定性、レジリエンスを実現するために他のリージョンと分離され、独立しています。詳細については、AWS 全般のリファレンスの「[Managing AWS リージョン](#)」を参照してください。

回帰

数値を予測する機械学習手法。例えば、「この家はどれくらいの値段で売れるでしょうか?」という問題を解決するために、機械学習モデルは、線形回帰モデルを使用して、この家に関する既知の事実 (平方フィートなど) に基づいて家の販売価格を予測できます。

リホスト

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リリース

デプロイプロセスで、変更を本番環境に昇格させること。

再配置

「[7 Rs](#)」を参照してください。

プラットフォーム変更

「[7 Rs](#)」を参照してください。

再購入

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リソースベースのポリシー

Amazon S3 バケット、エンドポイント、暗号化キーなどのリソースにアタッチされたポリシー。このタイプのポリシーは、アクセスが許可されているプリンシパル、サポートされているアクション、その他の満たすべき条件を指定します。

実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 (RACI) に基づくマトリックス

移行活動とクラウド運用に関わるすべての関係者の役割と責任を定義したマトリックス。マトリックスの名前は、マトリックスで定義されている責任の種類、すなわち責任 (R)、説明責任 (A)、協議 (C)、情報提供 (I) に由来します。サポート (S) タイプはオプションです。サポートを含めると、そのマトリックスは RASCI マトリックスと呼ばれ、サポートを除外すると RACI マトリックスと呼ばれます。

レスポンスコントロール

有害事象やセキュリティベースラインからの逸脱について、修復を促すように設計されたセキュリティコントロール。詳細については、Implementing security controls on AWSの[Responsive controls](#)を参照してください。

保持

「[7 Rs](#)」を参照してください。

廃止

「[7 Rs](#)」を参照してください。

ローテーション

定期的に[シークレット](#)を更新して、攻撃者が認証情報にアクセスするのをより困難にするプロセス。

行と列のアクセス制御 (RCAC)

アクセスルールが定義された、基本的で柔軟な SQL 表現の使用。RCAC は行権限と列マスクで構成されています。

RPO

[「目標復旧時点」](#)を参照してください。

RTO

[「目標復旧時間」](#)を参照してください。

ランブック

特定のタスクを実行するために必要な手動または自動化された一連の手順。これらは通常、エラー率の高い反復操作や手順を合理化するために構築されています。

S

SAML 2.0

多くの ID プロバイダー (IdPs) が使用するオープンスタンダード。この機能ではフェデレーテッドシングルサインオン (SSO) が有効になるため、組織内の全員に IAM のユーザーを作成しなくても、ユーザーが AWS Management Console にログインしたり AWS API オペレーションを呼び出したりできます。SAML 2.0 ベースのフェデレーションの詳細については、IAM ドキュメントの[SAML 2.0 ベースのフェデレーションについて](#)を参照してください。

SCP

[「サービスコントロールポリシー」](#)を参照してください。

シークレット

ではAWS Secrets Manager、暗号化された形式で保存したパスワードやユーザー認証情報などの機密情報または制限された情報。シークレット値とそのメタデータで構成されます。シークレット値は、バイナリ、単一の文字列、または複数の文字列です。詳細については、[Secrets Manager](#) ドキュメントの「シークレット」を参照してください。

セキュリティコントロール

脅威アクターによるセキュリティ脆弱性の悪用を防止、検出、軽減するための、技術上または管理上のガードレール。セキュリティコントロールには、[主に予防的](#)、[検出的](#)、[応答性](#)、[プロアクティブ](#) の 4 つのタイプがあります。

セキュリティ強化

アタックサーフェスを狭めて攻撃への耐性を高めるプロセス。このプロセスには、不要になったリソースの削除、最小特権を付与するセキュリティのベストプラクティスの実装、設定ファイル内の不要な機能の無効化、といったアクションが含まれています。

Security Information and Event Management (SIEM) システム

セキュリティ情報管理 (SIM) とセキュリティイベント管理 (SEM) のシステムを組み合わせたツールとサービス。SIEM システムは、サーバー、ネットワーク、デバイス、その他ソースからデータを収集、モニタリング、分析して、脅威やセキュリティ違反を検出し、アラートを発信します。

セキュリティレスポンスの自動化

セキュリティイベントに自動的に応答または修正するように設計された、事前定義されたプログラムされたアクション。これらのオートメーションは、セキュリティのベストプラクティスの実装に役立つ [検出的](#) または [応答的](#) な AWS セキュリティコントロールとして機能します。自動応答アクションの例には、VPC セキュリティグループの変更、Amazon EC2 インスタンスへのパッチ適用、認証情報のローテーションなどがあります。

サーバー側の暗号化

データを受信した AWS のサービスによって、送信先でデータが暗号化されること。

サービスコントロールポリシー (SCP)

AWS Organizations の組織内の、すべてのアカウントのアクセス許可を一元的に管理するポリシー。SCP は、管理者がユーザーまたはロールに委任するアクションに、ガードレールを定義したり、アクションの制限を設定したりします。SCP は、許可リストまたは拒否リストとして、許可または禁止するサービスやアクションを指定する際に使用できます。詳細については、AWS Organizations ドキュメントの [サービスコントロールポリシー \(SCP\)](#) を参照してください。

サービスエンドポイント

AWS のサービスのエン트리ポイントの URL。ターゲットサービスにプログラムで接続するには、エンドポイントを使用します。詳細については、AWS 全般のリファレンスの「[AWS のサービス エンドポイント](#)」を参照してください。

サービスレベルアグリーメント (SLA)

サービスのアップタイムやパフォーマンスなど、IT チームがお客様に提供すると約束したものを明示した合意書。

サービスレベルインジケータ (SLI)

エラー率、可用性、スループットなど、サービスのパフォーマンス側面の測定。

サービスレベル目標 (SLO)

サービス [レベルのインジケータ](#) によって測定される、サービスのヘルスを表すターゲットメトリクス。

責任共有モデル

ユーザーが、クラウドセキュリティとコンプライアンスに関する責任を AWS と共有するモデルのこと。AWS はクラウド自体のセキュリティに対して責任を負い、ユーザーはクラウド内のセキュリティに対して責任を負います。詳細については、[責任共有モデル](#)を参照してください。

SIEM

[「セキュリティ情報とイベント管理システム」](#)を参照してください。

単一障害点 (SPOF)

システムを中断させる可能性のあるアプリケーションの 1 つの重要なコンポーネントの障害。

SLA

[「サービスレベルアグリーメント」](#)を参照してください。

SLI

[「サービスレベルインジケータ」](#)を参照してください。

SLO

[「サービスレベルの目標」](#)を参照してください。

split-and-seed モデル

モダナイゼーションプロジェクトのスケールアップと加速のためのパターン。新機能と製品リリースが定義されると、コアチームは解放されて新しい製品チームを作成します。これにより、お客様の組織の能力とサービスの拡張、デベロッパーの生産性の向上、迅速なイノベーションのサポートに役立ちます。詳細については、[「」の「アプリケーションをモダナイズするための段階的なアプローチAWS クラウド」](#)を参照してください。

SPOF

[「単一障害点」](#)を参照してください。

star スキーマ

トランザクションデータまたは測定データを保存するために 1 つの大きなファクトテーブルを使用し、データ属性を保存するために 1 つ以上の小さなディメンションテーブルを使用するデータベースの組織構造。この構造は、[データウェアハウス](#)またはビジネスインテリジェンス目的で使用するよう設計されています。

strangler fig パターン

レガシーシステムが廃止されるまで、システム機能を段階的に書き換えて置き換えることにより、モノリシックシステムをモダナイズするアプローチ。このパターンは、宿主の樹木から根を成長させ、最終的にその宿主を包み込み、宿主に取って代わるイチジクのつるを例えています。そのパターンは、モノリシックシステムを書き換えるときのリスクを管理する方法として [Martin Fowler](#) により提唱されました。このパターンの適用方法の例については、[コンテナと Amazon API Gateway を使用して、従来の Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスを段階的にモダナイズ](#)を参照してください。

サブネット

VPC 内の IP アドレスの範囲。サブネットは、1つのアベイラビリティゾーンに存在する必要があります。

対称暗号化

データの暗号化と復号に同じキーを使用する暗号化のアルゴリズム。

合成テスト

潜在的な問題を検出したり、パフォーマンスを監視したりするために、ユーザーインタラクションをシミュレートする方法でシステムをテストします。[Amazon CloudWatch Synthetics](#) を使用して、これらのテストを作成できます。

T

タグ

AWSリソースを整理するためのメタデータとして機能するキーと値のペア。タグは、リソースの管理、識別、整理、検索、フィルタリングに役立ちます。詳細については、「[AWSリソースのタグ付け](#)」を参照してください。

ターゲット変数

監督された機械学習でお客様が予測しようとしている値。これは、結果変数のことも指します。例えば、製造設定では、ターゲット変数が製品の欠陥である可能性があります。

タスクリスト

ランブックの進行状況を追跡するために使用されるツール。タスクリストには、ランブックの概要と完了する必要がある一般的なタスクのリストが含まれています。各一般的なタスクには、推定所要時間、所有者、進捗状況が含まれています。

テスト環境

[「環境」](#)を参照してください。

トレーニング

お客様の機械学習モデルに学習するデータを提供すること。トレーニングデータには正しい答えが含まれている必要があります。学習アルゴリズムは入力データ属性をターゲット (お客様が予測したい答え) にマッピングするトレーニングデータのパターンを検出します。これらのパターンをキャプチャする機械学習モデルを出力します。そして、お客様が機械学習モデルを使用して、ターゲットがわからない新しいデータでターゲットを予測できます。

トランジットゲートウェイ

VPC とオンプレミスネットワークを相互接続するために使用できる、ネットワークの中継ハブ。詳細については、AWS Transit Gateway ドキュメントの「[Transit Gateway とは](#)」を参照してください。

トランクベースのワークフロー

デベロッパーが機能ブランチで機能をローカルにビルドしてテストし、その変更をメインブランチにマージするアプローチ。メインブランチはその後、開発環境、本番前環境、本番環境に合わせて順次構築されます。

信頼されたアクセス

AWS Organizations の組織およびそのアカウントで、ユーザーに代わって指定したサービスにタスクを実行させるためにアクセス許可を付与すること。信頼されたサービスは、サービスにリンクされたロールを必要なときに各アカウントに作成し、ユーザーに代わって管理タスクを実行します。詳細については、AWS Organizations ドキュメントの[AWS Organizations を他の AWS サービスと併用する](#)を参照してください。

チューニング

機械学習モデルの精度を向上させるために、お客様のトレーニングプロセスの側面を変更する。例えば、お客様が機械学習モデルをトレーニングするには、ラベル付けセットを生成し、ラベルを追加します。これらのステップを、異なる設定で複数回繰り返して、モデルを最適化します。

ツーピザチーム

2 つのピザを供給できる小規模な DevOps チーム。ツーピザチームの規模では、ソフトウェア開発におけるコラボレーションに最適な機会が確保されます。

U

不確実性

予測機械学習モデルの信頼性を損なう可能性がある、不正確、不完全、または未知の情報を指す概念。不確実性には、次の2つのタイプがあります。認識論的不確実性は、限られた、不完全なデータによって引き起こされ、弁論的不確実性は、データに固有のノイズとランダム性によって引き起こされます。詳細については、[深層学習システムにおける不確実性の定量化](#) ガイドを参照してください。

未分化なタスク

ヘビーリフティングとも呼ばれ、アプリケーションの作成と運用には必要だが、エンドユーザーに直接的な価値をもたらさなかったり、競争上の優位性をもたらしたりしない作業です。未分化なタスクの例としては、調達、メンテナンス、キャパシティプランニングなどがあります。

上位環境

[「環境」](#)を参照してください。

V

バキューミング

ストレージを再利用してパフォーマンスを向上させるために、増分更新後にクリーンアップを行うデータベースのメンテナンス操作。

バージョンコントロール

リポジトリ内のソースコードへの変更など、変更を追跡するプロセスとツール。

VPC ピアリング

プライベート IP アドレスを使用してトラフィックをルーティングできる、2つの VPC 間の接続。詳細については、Amazon VPC ドキュメントの「[VPC ピア機能とは](#)」を参照してください。

脆弱性

システムのセキュリティを脅かすソフトウェアまたはハードウェアの欠陥。

W

ウォームキャッシュ

頻繁にアクセスされる最新の関連データを含むバッファキャッシュ。データベースインスタンスはバッファキャッシュから、メインメモリまたはディスクからよりも短い時間で読み取りを行うことができます。

ウォームデータ

アクセス頻度の低いデータ。この種類のデータをクエリする場合、通常は適度に遅いクエリでも問題ありません。

ウィンドウ関数

現在のレコードに関連する行のグループに対して計算を実行する SQL 関数。ウィンドウ関数は、移動平均の計算や、現在の行の相対位置に基づく行の値へのアクセスなど、タスクの処理に役立ちます。

ワークロード

ビジネス価値をもたらすリソースとコード (顧客向けアプリケーションやバックエンドプロセスなど) の総称。

ワークストリーム

特定のタスクセットを担当する移行プロジェクト内の機能グループ。各ワークストリームは独立していますが、プロジェクト内の他のワークストリームをサポートしています。たとえば、ポートフォリオワークストリームは、アプリケーションの優先順位付け、ウェブ計画、および移行メタデータの収集を担当します。ポートフォリオワークストリームは、これらの設備を移行ワークストリームで実現し、サーバーとアプリケーションを移行します。

WORM

[「Write Once, Read Many」](#) を参照してください。

WQF

[「AWS ワークロード認定フレームワーク」](#) を参照してください。

Write Once, Read Many (WORM)

データを 1 回書き込み、データの削除や変更を禁止するストレージモデル。認可されたユーザーは、必要な回数だけデータを読み取ることができますが、変更することはできません。このデータストレージインフラストラクチャは、[イミュータブルな](#) と見なされます。

Z

ゼロデイエクスプロイト

[ゼロデイ脆弱性](#) を利用する攻撃、通常はマルウェアです。

ゼロデイ脆弱性

実稼働システムにおける未解決の欠陥または脆弱性。脅威アクターは、このような脆弱性を利用してシステムを攻撃する可能性があります。開発者は、よく攻撃の結果で脆弱性に気付きます。

ゾンビアプリケーション

平均 CPU およびメモリ使用率が 5% 未満のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するのが一般的です。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。